

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 | 集計結果 | 分析（成果と課題）と改善策等 |
|--|---|--------------------|---|---|---|------------------------|---------------------------------|--|
| 1 総合学科の特長を活かし、主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。 | ① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。 | 進路指導 教務 | 【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。 | 総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よくあてはまる (イ) ややあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない | (ア)+(イ)の% 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価 (生徒・保護者)で調査する。 | 生徒 85.5% B 保護者 88.1% B | 1年次生には、7月より本校の系列選択についての説明を開始した。保護者には、6月に説明会を実施し、進路選択と本校の系列選択をリンクさせて親子で検討する流れを整えた。 2年次生は進級後の進路・選択科目を確認し、進学・就職に向けてガイダンスを進行中である。 3年次生には、2年次の2月に保護者向けの進路説明会を開催し、その際、3年になってからの指導方法を説明しており、理解を得ていると思われる。 |
| | ② 学習習慣の定着と学びやすい学習環境を整備することによって、生徒がより主体的に学習しようとする意欲の向上につなげる。 | 教務 生徒指導 進路指導 | 【努力指標】 授業規律を具体的に示し、集中して学習に取り組める学習環境を整備することで生徒の積極的な学習姿勢の確立に繋げていく。 | 集中して授業に取り組むことができるようになったと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 授業評価 (生徒)で調査する。 | 92.9% A | 一昨年度から継続してすべての教室に生徒の授業態度の指標となる「ルール5」と「マナー3」を掲示し、生徒の授業に向かう意識と授業規律の向上、注意喚起を図ってきていることが、実を結んできている。 毎朝始業前に行っている「マナトレ」も学習習慣の定着の一助になっていることから、生徒の達成感は高くなっている。 |
| | ③ 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。 | 教務 | 【満足度指標】 授業が分かりやすいと回答する生徒が増える。 | 授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 授業評価 (生徒)で調査する。 | 89.8% B | 初任者研修や「若手教員育成プロジェクト」による授業互観など、本校には教員間相互での授業改善への取り組みが定着している。今年度はさらに、「校内研究授業」として、すべての教員が研究授業を行うことを計画し、意見交換を活発にし、授業改善につなげることで生徒の授業の理解度を高めていく。 |
| | ④ 個別進学指導や朝学習（マナトレ）、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。 | 進路指導 各学年 | 【成果指標】 ア 国公立大学合格者数 5名以上 イ 私立大学合格者数 30名以上 ウ 就職内定率 100% | ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 3月に集計する。 | | 現在、志望する進路に応じた基礎学力の充実のため、毎朝、マナトレ（プリント学習）を実施中である。就職試験に向けた学習内容もあり、取り組めば取り組むほど、進路選択の幅を広げる取り組みになっている。また、就職指導では、外部専門機関・地元ロータリークラブの協力による模擬面接を実施しており、合格に向けて、着実に前進している。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 | 集計結果 | 分析（成果と課題）と改善策等 |
|---|---|-------------|--|---|------------------|-----------------------|--|---|
| 2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。 | ① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等できると挨拶ができるよう指導を行う。 | 生徒指導 各学年 | 【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶が出来る。 | 自ら進んで挨拶ができると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価（生徒、保護者、教員）で調査する。 | 生徒 78.2% C 保護者 82.6% B 教員 65.9% D | 毎朝の登校指導を通してみると、しっかりと挨拶できる生徒は増えてきている。今年度は新型コロナウイルスの影響で、生徒会や運動部による朝の挨拶運動が十分に実施できていないものの、校舎内では部活動の生徒を中心にしっかりと挨拶しており、自発的な挨拶が浸透しつつある。 今後、状況を見て挨拶運動も実施していきたい。部活動での挨拶指導はもちろん、全校生徒に対して集会やホームルームなどで繰り返し挨拶の大切さを指導していきたい。 |
| | ② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。 | 生徒指導 | 【成果指標】 生徒は交通ルールを守って自転車に乗車している。 | 交通ルールを守って自転車に乗車している割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価（生徒、教員）で調査する。 | 生徒 87.4% B 教員 51.2% D | 今年度はこれまでの間、交通安全教室（1年次生）、能美署員から放送による交通安全の呼びかけ（全校）、自転車ルール・マナー検定の実施、本校イーグル隊と能美署が協力しての交通安全運動など、様々な機会をとらえ、交通安全に対する意識の醸成を図ってきた。しかし、毎日の街頭指導において、自転車での右側通行やイヤホンをつけての走行が少数ではあるが見受けられる状況である。 今後もグッドマナーキャンペーンやPTAとの合同一斉指導、学年集会、注意喚起ポスターの教室掲示などを通じて交通安全への意識を高めていきたい。 |
| | ③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。 | SCH | 【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組む努力することを通して、満足感や達成感を得る。 | 部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価（生徒）で調査する。 | 68.0% C | 満足感や達成感を感じる生徒の割合は、昨年度後期と比較すると若干増えてはいるものの低いままである。ただ、アンケートの中身を見ると、1年次生のA評価が45.0%と高くなっている。これは、1年次生の部活動加入率、特に運動部加入率が高いことや、長い休校期間を経てやっと部活動をできたことへの満足感であると思われる。 今年度は、「部活動目標設定シート」および「振り返りシート」を作成した。生徒が自ら目標・目的を持って日々の練習に臨めば、満足感や達成感も変わってくるのではないかと期待している。 |
| | ④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。 | 生徒指導 | 【努力指標】 いじめの未然防止に取り組む、発生時には迅速な対応をする。 | いじめの未然防止に取り組む、発生時には迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価（教員）で調査する。 | 83.0% C | 6月後半にいじめアンケートを実施し、1件いじめの認知を行った。管理職、担任、学年団、生徒指導が連携し迅速に対応し、現在は解消している。 今回のC評価は教職員のいじめに対する意識が不十分であることを示している。運営委員会や職員会議を通じて職員がいじめ未然防止や情報共有について徹底を図っていききたい。今後もいじめは必ずあるものと認識し、生徒への注意喚起を行うとともに、発生時には迅速かつ適切に対応していききたい。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 | 集計結果 | 分析（成果と課題）と改善策等 |
|---|--|--------------------|---|---|------------------|-----------------------|---------------------------|--|
| 3 SCH（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。 | ① 地方自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動により推進する。 | SCH 総務 | 【成果指標】 生徒が地域の活動に積極的に参加し、その活動を通して生徒が満足感を得る。 | 地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | それぞれの活動後に生徒にアンケートをとる。 | 75.1% B | 今年度は地域活動に参加する生徒の割合ではなく、活動後の満足度をアンケートで質問する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が全くといっていいほどなくなってしまった。今後しばらくは、同様の状況が続くのではないかと考えられる。能美市との地域連携として、いくつかの勉強会などが今後、何回か行われるが、参加するのは生徒会の生徒が主になると思う。生徒会として積極的に参加し、全校生徒にその成果を少しでも還元できればと思う。 |
| | ② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。 | 総務 SCH | 【満足度指標】 本校の教育活動や取り組みに対する保護者の理解を得る。 | 広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 学校評価（保護者）で調査する。 | 83.8% A | 昨年度結果を上回りA評価となった。各担当部署でホームページの更新やメール配信をできるようなシステムを構築することができた。臨時休業期間があったこともあり、ホームページアクセス数はすでに昨年度年間数を超え、メール配信登録も90%を超えている。今後もさらにホームページのこまめな情報更新や、学年・各課の保護者への便りの内容の充実、タイムリーできめ細やかなメール配信発信等、より一層の工夫が必要と考える。 |
| | ③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。 | 教頭 各課主任 学年主任 | 【成果指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高め、より一層の時間外勤務の削減を図る。 | 時間外勤務が月平均45時間以上であった教員の月平均人数が A 10人未満 B 15人未満 C 20人未満 D 20人以上 | C、Dの場合、改善の検討を行う。 | 教員の勤務時間記録で調査する。 | 10.5人 B 4月～7月 調査 | 今年度、時間外勤務が45時間以上であった教員の数は、4月1人(26人)、5月1人(24人)、6月21人(22人)、7月19人(23人)であった。(カッコ内は昨年同月の数) 時間外勤務の平均時間は6月45.0時間(50.2時間)、7月42.4時間(47.2時間)であった。6月7月の結果を昨年と比べると減少している。本校の教員は教育の質を落とさずに、業務の効率化を図っていると思われる。 |